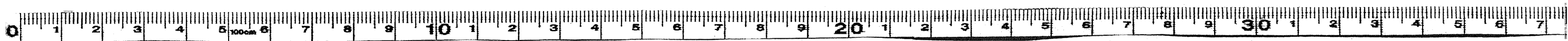


宇都宮大學  
附屬圖書館  
大川  
32-2

大川家  
32-2

郷社朝日森神社  
朝日森天満宮縁起書



記

神社朝日森神社由緒書

一、家綱公天滿宮尊崇、由來

二、佐野家一門、天滿宮

附佐野家一門、各城主、當宗社、天滿宮、合祀之  
代表十五城主系圖。

三、當神社拜領御朱印地

四、當社下書領主ノ關係

五、各創部使ノ當社參拜託録

附寶物類説明

六、管神廟碑

七、貴顯參拜ノ下

八、當社下郷ノ各種學校及び各種修養團體  
九、當社下郷土  
十、本社ノ基本金

一、家綱公天滿宮尊崇ノ由來

鎮守府將軍藤原秀郷公九代ノ孫、阿蘇八郎大夫家綱、武勇絶倫ニシテ剛力無比、民部太輔トシテ朝廷ニ仕ヘ奉リ、日夜ニ忠勤ヲ勵ミシカバ、天皇ノ御覺エ極メテ篤カリキ。然ルニ小野寺部太輔、家綱ノ信望遙ニ己ノ上ニ在ルヲ嫉ミ、遂ニ家綱ヲ退ケ、其所領ヲモ奪取ラント企テ、院ノ都度、家綱謀反心ヲ抱キ奉リ居ル由讒奏シ奉リシカバ、家綱ノ所領ヲ沒收シ、筑紫ニ配流スルコトニ決シ、直ニ勅使下向ス。家綱少シモ之ヲ知ラズ、

恰モ上洛ノタメ、大津マデ到リシ時、圖ラ  
ズモ勅使ニ會ヒ奉リ、勅狀ヲ拜ス。身ニ  
寸毫モ覺無キ家綱ハ驚愕措ク處ヲ知ラ  
ズ、直ニ參向仕リ身ノ潔白ナルコトヲ訴ヘ  
奉リ度欲スレドモ、綸言ナレバ如何トモ致シ  
難ク恐惶恐懼筑紫ニ下リ、只菅 謹  
慎ニテ冤罪ノ晴レン日ヲ待チ居タリ。  
家綱配所ニ在ルコト三年、而モ冤罪ハ今猶  
晴レズ、四體衰エ氣力萎エ、悲歎ノ朝  
暮ヲ送り居リレガ、或日、不圖、延喜ノ  
昔、菅丞相、左大臣藤原時平ノ讒  
言ニ遇ヒ、同ジク此地ニ左遷セラレ給ヒ、

御在所三年ニシテ遂ニ薨去アラセラレシ御  
事ドモヲ思ヒ出デ、悲恨遣ル方ナカリ  
ケン菅神ノ御胸中ヲ拜察シ奉ルト共  
ニ、菅神ニ對シ奉ル尊崇敬慕ハ念切  
ニ起リ來ル。家綱ハ菅神ノ御廟ニ詣  
デ、冤罪ノ晴レンコトヲ祈願シ奉ラント  
欲シ、早速大宰府天満宮ニ參々籠セ  
リ。斯クテ一心不乱ニ祈念ヲ疑ラスコト  
恰モ百ヶ日ノ満願ノ朝、靈驗灼タニシテ  
勿體ナクモ赦免ノ勅使ヲ賜フ。……睿覽  
佐野系圖及ヒ安樂寺縁起書ニ傳フル所ニ由レバ、  
家綱大宰府天満宮ニ參々籠シ、一心不乱  
三

ニ祈念ヲ疑ラスコト恰モ百ヶ日ノ希願ノ  
夜明方、暫日時假眠ムト思フ處ニ、管神  
ノ御影歴然トシテ顯現アレラレ、  
都ニ、朝鮮國ノ使者、蛇慢、我慢、  
慢タル三カ寺伴ヒ來リ、我が國ノ力士ト力  
量ヲ競ベシユトテ奉リ、且曰ク、若  
朝鮮力士勝タバ從來朝鮮國ヨリ  
奉リ來タリシ貢物ヲ廢シ、改メテ日本國  
ヨリ朝鮮國ヘ貢物ヲ賜ハリタシトイフ。  
朝廷ニテハ其ノ無禮ヲ御憤ラセ給ヒ、  
一敷手ノ下ニ打懲サレメント召思サル  
モ、目下我朝ニ於テハ汝ニ優ル力量ノ

者無キヲ以テ、明日勅使下向シ、汝ノ罪ヲ  
御赦免ノ上、三カ寺ト力量ヲ競ハシムル  
タメ御召出シアルベシ、謹ンデ勅ヲ奉ジ、速  
ニ上京シ、其ノ三カ寺ヲ討破リ、國威  
ヲ輝カスベシ。我レ必ズ汝ノ武運ヲ加護ス  
ベシ。ト仰セ給フ。家綱驚キ夢覺  
ムレバ、殿内ハ森トシテ泣返リ、神前  
ノ御神鏡獨煙タトシテ輝ク。家  
綱神恩ノ天ナサニ感泣シ、望見エバ  
其場ニ拜伏ス。夜明クハ靈驗違  
ハズ勅使到リ、忝クモ、冤罪御赦  
免ノ上、朝鮮力士ト力量ヲ競ヒ、速

カニムラ退治スベシトノ優渥ナル勅。  
詔ヲ賜フ。家綱畏恐畏懼勅ヲ  
奉ジ、天潢宮ニ必勝ノ御加護ヲ  
祈願シ、直ニ上京ス。  
家綱院ニ参レバ、天皇ノ御感斜ナク  
、直ニ南殿ノ大庭——一説ニハ京都三  
條ノ馬場——ニ召出サレ、朝鮮力士モ  
續イテ召出サル。朝鮮ノ使者、家  
綱ヲ見ルヤ、朝鮮方ハ力士三名  
罷能出デタルニ、日本方ハ一名  
願ハクハ三名出場セシメラレタシ。山ト  
イフ。家綱、勃然トシテ場ノ中央ニ

進ミ、大音聲ニ「本朝ニハ力士頗ル  
多シ、サレド從來異國人ノ願出ニ  
ヨリ競力致シ遣ハセシ際ハ、對手ノ  
多寡カラ問ハズ只一名出デ、悉ク之ヲ  
討破ルヲ例トセリ。依テ今回モ家綱  
一名ニテ相手遣ハスベシ。イザ、三名  
一時ニ掛リ來レ、ト呼バハリタリ。  
之ヲ聞キタル朝鮮力士ハ、得賢シ  
ト躍出グ。双方東西ニ立分カレ、隙  
アレト狙寄ル。行司、サット軍配ヲ引  
ケバ、三人ドウト一度ニ取掛リ、蛇慢、  
我慢ハ家綱ノ西脚ニ取付キ、岩暮ハ

腰ニ取付キ、三人呼吸ヲ揃ヘテ必死ニ  
攻懸ル。至上ヲ始メ奉リ、並居ル百官  
群臣、勝負如何ニト打案ジ、固垂テ  
吞ンデソ打瞞レリ。家綱、大金剛力  
ニ踏張り、疾風迅雷、両手ヲ伸ベテ  
蛇慢、我慢ノ帶ヲ取ルヨリ速ク、両人ヲ  
頭上高く振上げ、微塵ニサレト土俵ニ  
敲附ク、返ス其ノ手ニテ、岩幕ハ辟月ヲ  
掴ミ、腰ヲ捻ッテ腕離スヤ、一振り振ッテ  
虚空ニ投上グ。此ノ勝負ハ蛇慢、我慢  
ハ吐血ニテ即死シ、岩幕ハ危ク一命  
ヲ捨テ。餘リニ醜キ惨敗ニ、朝鮮ノ使

者ハ色ヲ失ヒ、恐怖周章譬フルニ物  
ナク、倉皇トシテ歸國ス。  
天皇ハ、家綱ノ勲功ヲ御嘉賞アラ  
セラレ、舊領ヲ復セラレタル上ニ小野寺  
氏ノ所領ヲモ併セ賜ハリ、且、可何ナ  
リトモ望ミアラバ申出デヨ。トトノ優  
渥ナル御譔ヲサヘ賜ハル。家綱、皇  
恩ノ無量ニ感激シ、冤罪晴レ、御  
赦免ト相成リ申シタルコトノミニテ無  
上ノ幸福ヲ痛感シ奉リ只管官恐  
懼シ奉リ居ルニ、舊領ヲ復セラレタル  
上ニ多分ノ加祿ヲ賜ハリタルコト、勿體

無キ極ミニシテ、冥加身ニ餘リ、榮達分、  
ニ過ギタレバ、最早此上ニ望ムハキ何  
物モ無シ。然レドモ今回御赦免ヲ  
賜ハリタル御事トイヒ、力量競ハニ  
勝利ヲ得タル事トイヒ、此レ皆官神  
ノ御加護ニ依ルモノナレバ、天満宮ヲ  
領地下野團佐野ニ移シ奉リ、守護  
神トシテ崇メ祀リ度キ儀ヲ願ヒ奉リ  
タルニ、直ニ御許容アラセラレ、天満宮  
御本社、御拜殿、二王門、別當安樂寺、  
諸堂靈寶悉ク下野團佐野城ニ引取  
ルヤウ御達ヲ蒙ムル。家綱恐悦譬ヘ

ニ方無ク、直ニ奉遷ニ着手シ、筑前國  
羽片ノ浦ニ運ビテ船ニ積ミ、吉日ヲト  
シテ日出度出帆セリ。  
警固ノ役ハ武藏ノ國糟壁會場能登  
守承ハリ、途中恙ナク下野團越名河  
岸ニ着ス。此處ヨリ陸揚ゲテ、本社、  
拜殿ハ唐澤山城御本丸ノ東南、天  
神山ニ建立シ、別當安樂寺並ニ二王  
門ハ並木村（現在ノ位置）ニ建立セリ。  
斯クテ佐野家ノ累代一門ハ、克ク祖  
先ノ遺志ヲ尊崇繼承シ、武運長久、  
守護神トシテ崇敬尊信ノ誠ヲ



致セリ。

然ルニ慶長六年、突如トシテ山城禁  
止令出づ。依テ慶長七年壬寅十二月  
天命郷春日岡ナル焼ケ城（又ノ名春  
日城）ニ移ル。此ノ際城ノ

東南方ニ伊勢山皇大神宮ヲ遷シ

西北方ニ朝日森天満宮（當社）ヲ遷シ（現在ノ位置）

東北方ニ小野寺（幡宮ヲ遷シ）（現ハ幡宮）

西南方ニ星宮ヲ富岡セツ塚ヨリ現在ノ地ニ遷ス。

### 佐野家一門ト天満宮

家綱公以來、天満宮ニ對スル佐野家ノ崇敬  
極メテ深ク、家門彌々隆昌シ、各所ニ築城  
スルニ至ルヤ、必ず守護神トシテ天満宮ヲ唐  
澤山ヨリ分祀シ尊告ホノ誠ヲ致セリ。以下實  
地踏査ノ結果ヲ略記セントス。

鎮守府將軍  
藤原秀郷公九代孫  
唐澤山城主  
佐野家綱公  
宗社天満宮  
唐沢山嶺天神山

俊綱

忠行

皇太子野寺

忠綱

足利冬郎

基綱

俊成俊賢

國綱

小太郎長房守

貞綱

小太郎長房守

成綱

水郎越前守

清綱

八郎依父兄  
尉花泉

直綱

太郎越前守

曲豆綱

相生城主  
縣社天満宮  
相生市天神町

利綱

上郡曾公井城主  
天満宮  
加蘇村久我

郷綱

上郡曾公南摩城主  
天満宮  
上南摩城北麓

政房

忠行五代孫

藤岡城主

村社天満宮  
藤岡町度谷

有綱

領部賀部郡屋  
村社天満宮  
同村新波  
村社天満宮  
同村緑川

廣綱

高曾沼城主  
天満宮  
浅沼

景綱

上佐野城主  
上佐野次郎  
村社天満宮  
常盤村牧

成實

足利郡西馬場城主  
天満宮  
西馬場天神山

宗綱

鰻山城主  
上南摩五郎  
天満宮  
酒里

行綱

上南摩五郎  
天満宮  
酒里

清綱少太郎

師綱越前守

重綱豐後守

季綱左近將監

盛綱少太郎

秀綱少太郎

泰綱少太郎

豊綱少太郎

上佐野四郎

常世源左衛門尉

大内館居住  
矢越天神

金

岩崎城主  
中山天神  
三好村岩崎

重長

是綱

小見城主  
村社天神  
田沼村小見

宗綱土代孫

行延

以藤原氏家  
町屋城主  
三月不河  
天荷台

昌綱少太郎

宗綱少太郎

氏忠  
小田原城主  
宗綱殺後  
富士屋形山別居  
小田原落城時戰死

信吉  
家綱公女代

慶長三年依命唐沢山城  
佐野春日岡へ所換へ  
宗社朝日木神上、  
城外堀、西現在、遷遷、  
小屋町、今、天神町

房綱天徳寺

## ○部屋城

下都賀郡部屋村ニ在リ。佐野家綱公、七男、部屋七郎有綱ノ居城ナリ。  
。守護神トシテ、唐澤山ヨリ天満宮ヲ分祀ス。現在

村社 天満宮 (同村新波)

村社 天満宮 (同村緑川) トシテ尊崇シ奉リ居レリ。

下野國誌、佐野系圖ニ、有綱都賀郡部屋郷ヲ領シタルヲ以テ部屋七郎ト號セリ。(戸矢子トモイフ。)トアリ。

青木家記録ニ、有綱初ノ本國都賀郡部屋郷ヲ領シ本村ニ住セシガ、後皆川城ニ移リ住ストアリ。

其後佐野莊司成俊(元暦元年十二月廿五日)病死セシヲ以テ、其ノ後ニ嗣ギ唐澤山丑ヶ城ニ移リ基綱ヲ補佐シタリ。

○西場城

足利郡富田村西場ニ在リ。佐野家綱公五男、西場太郎豊後守成實ノ居城タリ。現在ノ西場城山ハ其ノ城趾ナリ。

天満宮、城趾ノ西南方ニ在ル天神山ノ頂上ニ在リ。唐澤山天満宮ヨリ分祀セルモノナリ。西場殿ノ墳墓ハ天神山ノ北中腹ニ在リ。

唐澤山方角目付ニ、

西場元城主ハ、西場太郎成實ノ子孫相襲ニ居城セシガ、第十一代西場四郎舎人助故有リテ西岡村篠山城ニ移ル。

西場城 御本丸 北東二十五間  
二ノ丸 北東八十間  
城山ノ峯、西方横十二間、東方横八間、堅三十間余。

城下町割

城ノ東南方ニ梅ノ木町、上ノ町、下ノ町(現在耕作地)城ノ東北方ニ柿ノ木町、反町(今ハ耕作地)以上五ヶ町名存シタリ。

○阿曾沼城

安蘇郡大伏町字淺沼ニ在リ。部屋七郎有綱ノ四男、阿曾沼民部丞四郎廣綱ノ居城、壽永年間ニ築城。城趾ハ淺沼ノ中央ニ存ス。字南、字中、字北ノ三小字ニ亘リ、東西百間餘、南北百三十間、面積約一万千三百六坪餘存ス。

天満宮ハ城郭ニ存シ、本城ノ守護神トシテ唐澤山ヨリ分祀セリ。徳川時代ニ至リ阿曾沼七社權現ニ合祀ス。

下野國誌阿曾沼系圖ニハ(佐野軍記ニ、天正年間阿曾沼助太夫方重ハ、城

主廣綱第十三代ノ嫡孫ナリ。トアリ、

(東國擾亂記ニ、阿曾沼助太夫ハ佐野家ノ一門、家老ニテ修理亮家綱ノ補佐ナリ。昌綱(宗綱ノ父)侍女ニ通ジテ懷妊セシメシヲ、助太夫密ニ我が子トナシテ養育シタリシガ、女兒ナリシヲ以テ足利郡佐川田ノ住人佐川田喜六昌俊ニ嫁セシム。昌俊ハ助太夫ノ母ノ甥ニシテ、默々庵ト號シ、世ニ聞エタル歌人ナリ。寛文ノ頃、大后宮ノ撰ハセ給ヘル集外世六歌仙ノ一人ニテ『よしの山花まつ頃の朝な〜心にかへる峯のしり雲山ノ一首ハ、一代ノ秀逸ニシテ世人ノ知ル所ナリ。』

○ 上佐野城

安蘇郡常盤村大字牧ニ在リ。佐野實綱ノ二男、上佐野次郎景綱ノ築ク所ニシテ、子孫長島氏數代ノ居城タリ。

城趾 牧ノ大半  
本丸 六十間四方。東ハ二ノ丸 八十間四方。  
北ハ三ノ丸 百十間四方。 才花島 堅百間、横六十五間

本丸ノ西北方、古内ニ、天満宮ヲ守護神トシテ唐澤山城ヨリ分祀ス。現在ノ村社菅原神社之ナリ。

同神社ノ由緒書ニ貞和二年景綱勸請トアリ。同神社境内ニ、安蘇郡三大櫓ノ一ナル櫓ノ巨木アリ。樹齡堂々六七百年餘、分祀當時植エタルモノナリト言傳フ。

城趾ノ附近ニ、上木戸、下木戸、馬場(ハンバ)ノ小字名存ス。城趾ノ北裏ニ、侍屋敷トシテ、瀬戸内、敷美内、古内、落内(オチオチ)等存在シタリシカ、ソノマ、小字名トナリテ存ス。

常盤村大字<sup>仙波</sup>、上仙波ナル大沢山天神ハ、天文十八年十一月付記録

ニ、佐野養綱ノ代ニ社領三十七石ヲ賜フトアリ。(出流山觀音ハ巨刹ナレドモ五十石ニ過ギズ。城主が如何ニ天満宮ヲ尊崇セシカラ察スベキナ

リ。ン  
川村大守豐代

村社天満宮ノ由緒ニハ、長録二年、佐野家ノ臣太田、叢和田、土澤、小松原ノ祖先が勸請ストアリ。勸請記念トシテ、正月廿四日ノ夜、氏子全体ノ正月ノ注連飾ニテ燎火ヲ焚キ祭典ヲ執行ス。

鰻山城

安蘇郡田沼町戸奈良ニ在リ。佐野實綱ノ五男宗綱ノ居城ナリ。(下野西佐野戸奈良先祖書、西佐野郡内録)文治元年ノ築城。城趾ハ字羽室ニ存シ、野上川ニ沿ヒテ西北ヨリ東南ニ長キ小山ニシテ、其全形鰻ニ似タルヲ以テ其ノ名トス。城下ニ羽室宿アリ。天正五年三月十八日ニ出火ス

。此ノ際、羽室ノ町潰ルト、方角目附唐澤山城四方出張改メニアリ。

無格社 天満宮

築城ノ際、山麓東南方ニ守護神トシテ分祀ス。

戸奈良七天神

一、鰻山城 文治二年築城、宗綱、天神祠アリ。  
ニ、田中城 永仁元年築城、宗久、天神祠アリ。  
三、鳥居戸城 元弘年間築城、宗友、天神祠アリ。

以上ハ下野西佐野戸奈良先祖書、西佐野内録ニアリ。

外ニ現存四天神アレドモ、城主詳ナラズ。

鹿沼城

上野郡鹿沼町ニ在リ。佐野實綱ノ六男、鹿沼六郎左エ門尉行綱ノ居城ナリ。(鹿沼城御殿山公園ノ全部ニシテ、壬生筑後守意安、大永二年ニ

鹿沼ヲ領シ、其ノ後十年ヲ經テ此ノ地ニ築城シタルモノナリ。此ヲ龜城ト稱ス。今ハ御豪ノ一部ヲ埋立テ、八二、六四五畝ノ平地ヲ有セリ。

天満宮

鹿沼町天神町ニ存ス。本社創建押原推移録ニ、天正四年、御殿山城主壬生綱房、天満宮ノ社前ニ於テ德節齋ノタメニ弑セラレシ記載ヲ以テ本社ニ關スル文献ノ最モ古キモノトス。此トアリ。

下野國誌佐野系圖、行綱ノ欄ニ、行綱鹿沼六郎左衛門尉、勝綱（鹿沼權三郎入道教阿、鹿沼神山等ノ祖）日光山新宮ノ廣前ニ銅燈籠一基立テリ。其ノ銘ニ、天正應五年壬辰三月、日願主鹿沼權三郎入道教阿ト彫付ケテアリ。

此ノ燈籠、今も日光山新宮ノ廣前にあり。天満宮ヲ分祀ス。現在ノ天神町ノ天満宮即

千之十リ。

大内

佐野家ノ諸城

佐野源左エ門ノ屋敷ナリ。佐野源左エ門ノ屋敷ナリ。上佐野次郎景綱四代ノ孫、佐野源左エ門常世ノ子孫居住セリ。

錦田ノ東、西七十五間、南北八十五間、周圍ハエテ廻ラス。舊臣飯塚

、佐野源左エ門常世ノ子孫居住セリ。

一、佐野源左エ門常世ノ子孫居住セリ。

佐野源左エ門常世ノ子孫居住セリ。守護社トシテ分祀シタリ。境内ニ杉ノ巨木アリ。

〇 町屋城

赤見村町屋ニ在リ。戸倉良五郎宗綱十一代ノ孫、青木河内行延ノ居城

ナリ。



青木家記録ニ、同天正年間青木行延、狎切ノ合戦、小田原ノ陣ニ天徳寺  
伯ニ随フ。軍功ニ依リ町屋城ヲ拜領ス。

城跡東西九十間、南北二百六十間、現在ノ町屋ノ大半。

本城跡ニハ一丈餘ノ土手ヲ方形ニ圍ラス。面積約ニ反餘アリ。土手ノ  
外周ニハ中ニ間鉢ノ堀ヲ圍ラシ、水堀々タリ。堀辺ニハ老樹鬱蒼トシテ  
繁茂シ、真ニ古城ノ面影ヲ存ス。宗家青木家出身海軍造兵少佐青木小二  
郎氏ノ所有地タリ。

一、天神宮

本丸ノ西北ニ在リ。本城ノ主護神トシテ分祀ス。現在ハ青木家一門並  
ニ町屋住民ノ尊崇頗ル厚シ

〇 吉水城

田沼町吉水ニ在リ。佐野重綱ノ長子、季綱ノ居城ナリ。佐野城七繪圖  
ニ、吉水城郭内ニヶ所ニ天神祠アリ。

一村社 天満宮

本丸ノ東南方ニ存ス。本丸ノ西北方ニモ天神祠アリシガ、現在ハ樹神  
社ニ合祀ス。

〇 桐生城

群馬縣桐生市ニ在リ。桐生次郎豊綱ノ居城ナリ。城跡ハ桐生村久方郷  
平井山ニ在リ。高サ八百尺、周圍十八時廿二間、  
本丸東西四十間、南北二十間、

城ハ佐野國綱ノ二男、豊綱、桐生又太郎左京亮元義ノ養子トナリ家督

ヲ襲ギテ再興ス。觀應年間此處ニ築ク(田原族譜)トアリ。

城ノ東南方梅田村ニ天禰宮ヲ祀リ守護トナス。徳川時代ニ至リテ現在ノ地ニ遷ス。縣社 桐生天禰宮耶之ナリ。

### ○ 藤岡城

下都賀郡藤岡町ニ在リ。富士下野守忠行五代孫藤岡出羽守政房ノ居城ナリ。城趾ハ字内町ニ在リ。東西二百五十餘間、南北三百八十餘間アリ。當時ノ湯地ト賴ミシ園濠モ、今ハ年々水田ニ化シ、僅カニ昔ノ面影ヲ存スルノミ。

一村社 天満宮

藤岡町底谷ニ在リ。境内一町步餘、老梅古松鬱蒼タリ。明治年間火災ニ罹リシ爲メ、新築資料トシテ多クノ巨木ヲ伐採セルヲ以テ、著シク崇

嚴ノ威ヲ損ジタレドモ、境内ヨリ東へ連續シテ馬場アリ、老梅繁茂シ、轉神徳ノ高潔ヲ拜得セシムルモノアリ。政房、藤岡城再興ノ際、城ノ西ニ方ニ守護神トシテ分祀セリ。

### ○ 久賀城 又金ヶ崎城

上都賀郡加蘇村下久我ニ在リ。佐野成綱五男、久賀七郎兵衛利綱ノ居城ナリ。城趾ハ字坂丸ニ在リ。本丸ハ回字形ヲ成シ、東西四十間、南北三十八間、面積千五百坪アリ。四面ニ土手ヲ構ヘ、ソノ内ニ幅二間ノ堀アリ。二丸ハ本丸ノ西ニ連續シ、東西二十五間、南北三十五間、面積九百坪、土手ノ構、濠、何レモ本丸ニ同シ。

櫓城山ノ次ニ圓形ノ城趾アリ。面積凡五百坪、四方ニ構堀アリ。西南ノ二方ハ二重ノ土手アリ。代表十五城趾中、最モ歴然トシテ當時ノ面影ヲ

存シ居ルモノハ本久我城趾ノミナリ。

佐野家ノ諸城　七

久賀系岡利綱ノ櫓ニ、岡利綱ハ佐野安房守基綱五代孫越前守成綱ノ五男也。行春子無ク、久賀家養子トナリテ家督ヲ受ケ、築城大ニ進ム。此時東丸ノ東南方ニ守護神トシテ天満宮ヲ分祀ス。

久賀實録、久賀日記ニ「久賀殿ハ金加澤御本丸北ハ山ナリ。其山内要害御本丸アリ。南方ノ山下ニ在ル城郭ニアリ。東ハ久賀大明神ノ社ニシテ、南ハ天神ノ森ナリ。未申ノ方並ニ宗國寺屋敷ナリ。」

## ○ 南摩城

上郡賀郡南摩ニ在リ。久賀七郎兵衛利綱ノ長男、南摩孫太郎備前守郷綱ノ居城ナリ。

城趾、初メハ龍蓋山四百尺ニ山城ヲ築キタルモ、後南方五六町ノ城山

ヘ城換ヲナス。

本丸趾、東西二十間、南北四十間、周圍ニ幅三間ノ空濠アリ。

城山ノ下ニ堀ノ内館アリ。其名ノ如ク堀ヲ以テ廻ラス。今ハ只土手ヲ残スノミナリ。

城模ノ際、本丸ノ東南方、城山ノ中腹ニ守護神トシテ天満宮ヲ分祀ス。今日ハ舊臣大貫家ノ守護神ナリ。

天正十八年、城主南摩備前守綱善、北條氏直ニ屬シ小田原ニ出陣ス。小田原落城ノ時、南摩セ一騎ノ一人大貫甚五郎門ニ城ノ留守役ヲ仰付ケ、岩城國ニ放チ、後會津ヘ移住ス。

一徳川時代ニ、南摩家子孫彌惣右エ門ノ代寛文八年、堀之内山ニ西ノ享保九年ニ堀之内山、畑、屋敷十面ニテ引續キ居住セシ大貫家子孫ニ譲渡

左野家ノ阿之番成

サレタルヲ以テ、(其當時ノ讓渡證書ニ通同家ニ存ス)龍蓋山、城山諸  
共ニ同家ノ所有ニ歸ス。同家ハ引續キ堀之内館趾ニ居住ス。(主人大貫信一  
氏ハ現村長タリ。)

陸軍大將男爵奈良武次閣下ハ、南摩セ一騎ノ一人タル奈良家之出身也。  
帝國大學教授、南摩細記先生ハ、城主細綱ノ後裔也。斯ノ大人物ヲ出カ  
シタルコトハ、藤原氏佐野家一門ノ名譽タリ。

### ○ 岩崎城

安蘇郡三好村岩崎ニ在リ。佐野重綱ノ二男、岩崎次郎左馬助重長ノ居  
城ナリ。城趾ハ岩崎橋原ニ在リ。佐野城古繪圖中、岩崎城郭内ニニヶ所  
天神祠アリ。本丸ノ東南方ニモ天神祠アリ。

無格社南山天神 現在ノ位置ハ其當時ト同じ。

本丸ノ西北方ニ天神祠アリ。

金堂天神 又熊野天神

元和年間岩崎家ノ臣蓼沼道半、邸内ニ遷祠セリ。現在ハ蓼沼家一門三  
十餘軒ノ守護神トシテ崇敬頗ル深シ。毎年九月廿五日ニ大祭ヲ行フ。社  
前ニ菅公一千年祭記念碑アリ。

唐澤山方角目附ニ

岩崎御門御所屋形 南北百五十間、東西六十間。

本丸、南北二十一間、東西十一間。

東ノ地 南北三十間、東西十間、丸形ナリ。

木曾岩崎系圖ニ

天神社ハ、元暦元年三月十日、義基鎌倉ヲ遁レ落ッル時ニ天満宮ニ祈



10  
 9  
 8  
 7  
 6  
 5  
 4  
 3  
 2  
 1

[illegible]

100

天有山一峰  
年史一  
浩

上記ノ如ク、佐野ヲ中心トシテ四郡一市ニ亘ル佐野一門ノ各域趾ヲ實地ニ踏査研究シタル結果、佐野泉一門ノ城ニ、必ず巽ノ方若クハ乾ノ方ニ守護神トシテ天満宮（天神）ヲ奉祀シタルコト明瞭トナレリ。然レテ其等各天満宮（天神祠）ニ関スル古文書及ビ傳説等ニ付キテ調査研究シタルニ、何レモ唐澤山天満宮ヨリ分祀シタルモノナルコトモ分明ニナレリ。尚、舊曰佐野領ニハ秋山天神、豐代天神、大澤天神、葛生（峯ノ宿ト稱スル時代）上井ノ上天神、中天神、下天神、多田ノ四方天神、戸奈良ノ七天神、出

流ノ七天神、君田ノ甘酒天神、免鳥天神、  
赤見ノ大野天神、大門天神、能仁寺(上田  
沼)ノ梅天神、黒袴ノ黒袴天神、青柳  
(上柳)ノ栢木天神等々天神祠頗ル多ク、  
領民ノ尊崇極メテ深シ。是レ佐野家綱  
公、天満宮ノ御加護ヲ蒙リ、山免罪  
晴レ、赦免ノ恩命ニ浴シタル上ニ、朝鮮力  
士ヲ御前ニ破リ、功ヲ君國ニ建テ、  
得家門隆昌ノ礎ヲ築キ得タルヲ以  
テ、神恩ノ無量ニ感激シ、遂ニ勅許  
ヲ仰キ奉リ、太宰府ヨリ天満宮ヲ唐澤  
山ニ奉遷シ、佐野家ノ守護神トシテ

尊崇シタルヲ以テ、其ノ子孫一門克ク父  
祖ノ精神ヲ継承シ、篤ク天満宮ヲ  
崇敬セリ。叡覽佐野系圖中ニコノ母  
年八月御由有之節、野州譜代ノ面  
々拜禮相成候キト明記セラル、ガ如ク、  
本社ノ祭典ハ、佐野家ノ年中行事最モ  
重要ナルモノナリ。頗ル鄭重ニ執行  
セラレタルヲ天満宮ニシテ、領主ノ尊崇既ニ  
斯クノ如クナルヲ以テ、臣下及ビ領民ハ等シ  
ク天満宮ヲ崇敬シ、領主ニ仰乞ヒテ各  
居村ニ分祀シ、領主ノ武運長久ト御上ノ  
安穩發展ノ守護神トシテ尊崇セ

リ。  
故ニ我が朝日森天満宮ノ神性ハ文教ノ  
神ト言ハシヨリハ寧リ百戰百勝武運  
長久ノ神ニテ在シマシムルモノトイフヘク、且、本  
朝日森天満宮ハ單ニ佐野家ノ守護  
神ナリシノミナラス、廣ク佐野領一帯  
ニ存ス。天満宮ハ天神祠ノ大皇社ニシテ  
各天神社ハ毎々ニ分社末社ノ關係ニ在  
ルモノナリナリトイフヲ得ヘシ。

當社拜領御朱印地

徳川二代將軍秀忠

天神別當光明寺

下野國安蘇郡天命村内拾石事所寄附也并  
境内竹木諸役等可爲守護使不入者也

寛永三年五月二十六日

朱印

徳川三代將軍家光

天神別當光明寺

下野國安蘇郡天命村之内拾石事并境内守  
護使不入竹木諸役等免除任寛永三年五月  
二十六日 先判旨 弥不可有相違者也



寛永十三年十月九日 朱印

徳川四代將軍家綱

野州安蘇郡

天神社領

天神社領下野國安蘇郡天命村之内拾石并  
石事并境内守護使不入竹木諸役等免除任  
寛永三年五月二十六日同十三年十月九日西先判  
之旨別當光明寺進山永不可有相違者也  
寛文五年七月十一日 朱印

徳川五代將軍綱吉

下野國安蘇郡天命村

天神社領 光明寺

下野國安蘇郡天命村天神社領同村之内拾石并  
境内守護使不入竹木諸役等免除任寛永三  
年五月二十六日同十三年十月九日西先判之旨  
別當光明寺進山永不可有相違者也

寛文五年七月十一日 朱印

徳川五代將軍綱吉

下野國安蘇郡天命村

天神社領 光明寺

下野國安蘇郡天命村天神社領同村之

内拾石并境内守護使不入竹木諸役等、  
免除仕寛永三年五月二十六日、同十三年十  
一月九日、寛文五年七月十一日、先判之旨別  
當光明寺進山永不可有相違者也  
貞享二年六月十日 朱印

德川三代、七代將軍ノ時ニ書替ノ御沙汰無  
久八代將軍吉宗ヨリ十四代迄ハ同文ニ付  
一例及年月日ノミヲ掲グ

德川八代將軍吉宗  
下野國安蘇郡天命村天神社領同村

之内拾石事并境内守護使不入竹木諸役等  
免除依當家先判之例別當光明寺進山  
永不可有相違者也  
享保三年七月十一日

德川九代將軍家重  
延享四年八月十日

德川十代將軍家治  
寶曆十二年八月十日

德川十一代將軍家齊  
天明八年九月十日

德川十二代將軍家慶  
天保十年九月十日

徳川十三代將軍家定

安政二年九月十日

徳川十四代將軍家茂

萬延元年九月十日

當社ト舊領主トノ關係

一、寛永十年井伊直孝公本町ノ領主トナルニ及  
ヒテ年々幣帛料ヲ寄進セラル

ニ、嘉永六丑年領主井伊直弼公當社ノ御  
參詣御紋附御提灯ニ張ヲ御寄進  
セラレテヨリ爾來毎年領主御親拜又ハ  
御代拜アリテ御提灯ヲ御寄進セラル事  
ヲ慣例トセラレタリ。

各例幣使ノ當社御參拜ノコト  
一、毎年京都ヨリ日光廟ヘノ奉幣使ハ當地着、  
本陣ニ泊、翌朝必ス當神社ヘ參拜シ、然  
ル後奉幣使ノ資格ヲ整ヘ日光廟ヘ參向  
スルヲ例トセリ。

### 當神社寶物

仁孝天皇御召ノ御茵ノ由來

弘化三年四月例幣使東坊城宰相當神社  
御參拜ノ後、仁孝天皇御召ノ御茵ヲ  
拜領シ奉藏ヲ居ルヲ以テ神威灼然タル  
御當社ニ奉納セン事ヲ約シ、翌四年四

月、奉幣使四辻宰相ニ托シテ當天滿宮ヘ  
奉納セラレシモノナリ。

此外、尚多クノ公家ノ短冊アリ。何レモ  
例幣使ノ當天滿宮ニ參拜ノ折、記念  
ニ奉納セシモノナリ。

# 菅神廟碑

(左碑銘ノ全文ヲ掲グ)

本碑銘ハ郷土教育上、貴重ナル修身  
書トシテ尊重セラレ、文化<sup>年</sup>増ノ如キハ、木  
版活字ヲ用ヒテ印刷ニ付リ、廣ク子弟ニ  
頒布シタリ。  
現今ニ於テハ、郷土ノ各種學校ノ修身  
教材トシテ尊重セラレ、其ノ一字一句モ極メテ  
敬虔ニ態廣ニ於テ研究セラレ、其ノ眞價  
ノ發揮ニ努メ居レリ。

福島縣耶麻郡摺上原ニ三忠碑トモアリ、  
嘉永三年ノ建立ニシテ、我が菅神廟碑  
ト等シク顔眞卿ノ書ヲ集メテ文字ヲ成  
セリ。當時ノ帝國大學総長山川健次  
郎氏、大正天皇、皇太子ニテ在ラセラレ頃  
摺上原ニ待リ、該碑ノ説明ヲ申上ゲ、  
恐ラク日本唯一ノ碑ナント奏聞申シタリ。  
後日、山川健次郎氏、當時佐野中學校  
視察ノ折、我が朝日森神社ニ參詣シ、  
菅神廟碑ヲ觀、其ノ建立年代ノ更ニ古ク  
其ノ堂々タルニ驚キ、深ク寡聞ノ罪ヲ恐懼  
シ奉リ居タリ。

貴顯ノ參拜

神德山崇高ナルヲ以テ古來貴顯ノ參拜頗  
多ク最近ニ於テモ、大正十年九月、後藤新  
平伯ノ御參詣アリテ、神如在レ、題額ヲ  
自書ニテ奉納セラレ、昭和四年十月十九日ニ  
ハ、徳川家達公御家族一同御參拜アリ  
テ社前ニ楠ヲ御手植具セラレタリ。

本社ト郷土ノ各種學校

郷土ノ各種學校ハ、三大祭、夏祭及入学  
業ニ必ず児童生徒ヲ引率參拜シ、神ノ  
御加護ヲ仰ギ奉ル共ニ、誠ヲ以テ學ビ  
ノ道ニ勵マンコトヲ誓ヒ奉リ、敬神崇祖ノ精  
神ヲ涵養シ、日本精神、國民的性格  
ノ基礎的陶冶上、神德ニ仰ギ奉ル處  
頗ル大ナリ。

本社ト郷土

本社ニ對シ奉ル郷土ノ尊信ハ極メテ厚ク久行  
事ハ大ニトテ神ニ告ゲ奉リ其ノ御加護  
ヲ仰ギ奉リ、事成ハハ必ズ神ニ告ゲ奉リ神  
恩ヲ謝シ奉リ居レリ。郷土全体ノ崇敬ス  
クノ如クナルヲ以テ、個人ノ尊信頗ル深ク  
詣者日夜絶エザルナリ。

本社ノ基本金

郷土ハ勿論、當地方一圓ノ尊信頗ル篤  
ク、年々基本金ノ指定可附金アリテ其  
金額貳万七千餘円ニ及ビ居レリ。